**高須克弥×赤尾由美　赤尾敏がＳＥＡＬＤｓを見たら何と言っただろうか？**

※この記事は月刊正論６月号から転載しました。「危ない２人（３）」は[**月刊正論７月号**](http://www.amazon.co.jp/dp/B01EG98T94)は掲載しています。ネットでのご購入は[**こちら**](http://www.amazon.co.jp/dp/B01EG98T94)へ。

【危ない二人】

★**高須克弥（たかす・かつや）**　高須クリニック院長。昭和２０年生まれ。昭和大医学部卒。同大学院修了。医学博士。学生時代から赤尾敏の信奉者

★**赤尾由美（あかお・ゆみ）**　アカオアルミ（株）代表取締役　赤尾敏の姪。昭和４０年生まれ。明治大文学部卒。共著に『国防女子が行く』（ビジネス社）

★**赤尾敏（あかお・びん）**　明治３２年１月１５日－平成２年２月６日　日本の保守政治家、元衆議院議員、大日本愛国党初代総裁。銀座数寄屋橋での街頭演説で名高かった。

　高須克弥（以下、克弥）　去年、反安保法制デモで騒いでいたＳＥＡＬＤｓなんかを見てると、右と左は違うけど、１９６０年代に、ただ行動右翼のスタイルに憧れて赤尾敏先生に一緒についてきているだけの人たちを思い出しますね。単に、いかにも右翼という格好をして、旗を振っているような人たちね。僕は、赤尾先生に心酔して、追っかけみたいなことをしていたんだけど、ああいう人たちを見て、「本当に赤尾先生の言っていることが分かっているのかな」「この人たちと、僕は違うんだけどなあ」と思ってましたね。

　赤尾由美（以下、由美）　伯父は私が２５歳の時に亡くなったので、当時はあまりよくわかってなかったんですけれども、今、インターネットでいろいろな動画を見てみますと、確かにちょっと残念な人たちも伯父の周りはいましたね。でも、ＳＥＡＬＤｓと似てますか。

克弥　ええ。要はイデオロギーはよく理解していなくて、思想に心酔したわけでもなくて、とにかく、スタイルに憧れちゃっていただけ。ちょうど、バイト感覚で集まってきているＳＥＡＬＤｓみたいなもんですよ。もちろん中には、政治思想がある奴もいる。それもＳＥＡＬＤｓと一緒です。

　由美　当時の映像を見ると、品性も知性も足りないような人もいましたね。そこは残念に思います。今のエセ右翼はもっと酷いですが、当時は時代の影響もあったかもしれませんね。

　克弥　あの頃は、みんな頭のいい若い奴は、全部左に行くということに、決まってて（笑）。ファッションで「資本論」なんか持ってる奴が多くてね。つまらんこと書いてあるのに、マルクスの本を持ってる。それだけでモテるというね。それで、右の方は、右翼というだけで初めからモテない。モテないから、諦めて右翼でもやるかとか。そういう感じでした。

　ただ、僕が入っていた昭和大学空手部の連中は、赤尾敏先生が、みんな好きでしたけどね。医学部に入学して、すぐ空手部入って、日曜日は何をやってるかといったら、赤尾先生の演説を聴きに行ってた。あ、でも、空手部に入ってくるのは、医学部でもわりと、バカな連中か。

　由美　いえいえ、そんなことはないでしょう。昭和大学医学部は、かなり優秀じゃないですか。

克弥　いやいや、バカですよ。医者にとって、手術をする手は、命より大事もしなければいけないものですよ。その手で、巻き藁を突いて、タコつくって喜んでるんだもん。パーですよ（笑）。でも、赤尾先生の信念を貫く生き方が好きだったんです。

ＳＥＡＬＤｓはショボい

　由美　確かに伯父は信念の人でしたね。戦中の昭和１７（１９４２）年に、衆議院選挙に当選したのですが、米国と戦争している最中に、「米英と戦うな」とあの東條英機に抗議していたんです。戦争中に反体制派だったので、冷たい扱いを受けたそうです。

　克弥　赤尾先生はすごくいいお家の方で、選挙に当選してみえたんですよね。でも、大政翼賛選挙で、バリバリの右翼しかいなかった時代に「鬼畜米英」の時流に乗らず、「米英と戦うな」「北へ進んでソ連と戦え」とおっしゃっていた。戦後、左翼が全盛になってインテリが全部、親ソ連でマルクスを読む時代になると、先生だけ「そんな露助が読むような本を読んだら、みんな馬鹿になるぞ」とおっしゃった。周りが変わっただけで、先生は一貫していたんです。その孤軍奮闘を思うと、涙がこぼれます。

　由美　ありがとうございます。伯父は一貫して反共愛国でした。ですから、戦中、日米戦争に反対だったのに、戦後になったら公職追放されてしまいます。あれはおかしいですよね。

克弥　わりと大雑把にパージしているんですよ、あれ。

　由美　今から考えると、戦後、ＧＨＱがやった公職追放って、すごい洗脳ですね。だって２０万人以上まとめて追放して、それで、頭の赤い人たちを各界の上に立たせたわけですから、日本がダメになるはずですよ。

　克弥　社会主義的やり方ってそうですね。大雑把に無実の罪でも何でもいいから、こいつら全部片付けちゃおうというね。それで、日本でも細胞分裂みたいにして、赤い人が増えていきましたもん。それから６０年安保に突入するんですが、反安保条約の時の勢いだったら、あのまま社会主義革命が起こっても不思議じゃなかった。去年、ＳＥＡＬＤｓとか「たくさんの人がデモに集まった」なんて言われてたけど、比べものにならないですよ、全然違う。すごくしょぼいですもん、今のは。だって当時は国会の中まで乱入して、首相の岸信介さんの首も取ったんですよ。死人も出ましたしね。

左翼は弱くなった

　由美　当時と今では、赤化されるんじゃないかという恐怖感が全然違う。いまは、だいぶ、ましになったってことですよね。

　克弥　あの６０年安保で左翼は負けて、潮目が変わったから、日本は救われたんです。左翼との対決を街頭で訴えた赤尾敏先生の功績も大きかったかもしれない。いま、左翼もすごく弱くなりましたよ。共産党もあまり怖くなくなったじゃないですか。この頃は、天皇陛下が国会を開会なさる時、ちゃんと式に出てきて、行儀良く座ってます。あんなこと、徳田球一が元気だった頃ならありえないですよ。野坂参三だったらやりそうですけど、野坂は途中から党に否定されてますからね。

由美　共産党はほかの政党と比べると、ブレることが少ないので、ある意味、野党の中では一番好きなんです（笑）。

　克弥　そこは敵ながらあっぱれだと思いますけど、共産党は皇室に対する考えが、僕らとは根本的に違いますからね。そもそもソ連の共産党は、ロシア皇帝を倒したことから始まってるんです。

　由美　共産党は唯物史観だから決定的にダメなんです。「魂と神々を信じて、その神々を祈る天皇を中心として」というところが、伯父にとって一番大事なところでしたから。ただ、ご存じかもしれませんが、もともと、伯父はみんな仲良く豊かになったらいいという思想だったこともあって、若い頃は社会主義者だったんです。獄中で転向したそうです。

　克弥　だから、本物なんです。はじめから右翼しか知らないおバカさんは本当におバカさんなんです。国粋主義のことを知らない、マルクス主義だけ勉強している人も、それはそれでおバカさんなんです。しかし、先生のように元社会主義者で、それで変わったら、何もかも敵の弱い所を知っていることになるでしょう。

ソ連と戦っていれば国連は…

　由美　左翼は弱くなりましたけど、でも、相変わらず日本人は国を守るという意識がないですよね。どうすれば、目が覚めるのかなと思います。憲法を小手先でちょっとずつ変えたって、きっと、目が覚めませんね。中国にミサイルを落とされて、何万人か何十万人か死ぬような、恐ろしいことが起きないと目が覚めないのかな、と思います。

克弥　ＳＥＡＬＤｓが「アメリカの戦争に引きずり込まれる」なんて言っていましたけど、あれ逆なんです。安倍晋三さんは、日本を守るためにアメリカを引きずり込みたいから、一生懸命やってるんです。ま、僕なんかは、中国海軍は弱いから、逆に攻めてきてくれないかなと思ってるんですけどね。今なら、絶対勝てますもん。海軍が弱いから、いくら陸軍たくさん持ってたって怖くない。中国の空母だったら簡単に沈められるから、空母を一隻沈めて講和すればいいんです。そしたら途端にナショナリストも増えますよ。

　由美　日本人はお人よしですから、自分がしないことは相手もしないと油断していますね。あと、「話せばわかる」とか。そういうことは日本人同士の時ならばいいですが…。

　克弥　相手は中国共産党ですよ。共産主義者と話し合ったって、攻めてくるときは、攻めてきます。僕は、もし、日本が台湾の肩を持って、台湾の政府が中国の代表として国連の常任理事国に残っててくれたら、世界はまったく変わっていたと思う。特に日本は今でも、国連至上主義ですからね。でも、国連って本当は、Ｕｎｉｔｅｄ　Ｎａｔｉｏｎｓなんですけどね。

　由美　要は、第二次大戦の戦勝国の集まりですから、それを日本が至上のものとして崇めるのも間抜けな話ですね。

克弥　国連と呼ぶからおかしいんで、僕は、連合国と言ってる。その程度のものです。もし、赤尾敏先生が言うように、戦前の日本がアメリカと衝突を避けて南進せず、北進していれば、ソ連はアジアに赤軍を留めざるを得ないから、そのうちに、ドイツに敗れていたかもしれない。そうすれば、日本はアメリカと戦わずに済んだし、「国連」もロシアと中国が幅をきかす今のものとは違うものになっていましたよ。そう考えても、赤尾先生は正しかったんです。（次回に続く）

※編集部注　現代では不適切とされる言葉も、赤尾敏氏の発言を史実として残すため、掲載しました。

※この記事は月刊正論６月号から転載しました。「危ない２人（３）」は[**月刊正論７月号**](http://www.amazon.co.jp/dp/B01EG98T94)は掲載しています。ネットでのご購入は[**こちら**](http://www.amazon.co.jp/dp/B01EG98T94)へ。